

現状	課題	改善目標 (KPI含む) ※目標値は現状を基準としたもの
<p>○勤務時間を除く在校時間 (単位は「1日あたりの平均時間」) 1時間26分 (R2.3調査)</p> <p>○年次休暇取得日数 9.7日 (R2)</p> <p>○県学力・学習状況調査 (R2 2・3年集計)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力を伸ばした生徒の割合 66.9% ・自分にはよいところがあると回答した生徒の割合 77.8% <p>○教職員アンケートの実施 (R3.6調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供と向き合う時間の確保がなされている。 87.5% ・教材研究や授業準備に必要な時間がとれている。 66.7% ・ワーク・ライフバランスの実現が図られている。 62.5% ・持ち帰り仕事をした日数が月6日未満。 66.7% ・自分の職務について負担感が大きいと感じていない。 70.8% 	<p>○勤務時間を除く在校時間が長く、仕事の持ち帰り状況も見られる。</p> <p>○授業以外の業務が多く、子供と向き合う時間の確保が十分とはいえない。</p> <p>→その他、学力向上の取組、新学習指導要領への準備等の時間の確保が十分とはいえない。</p>	<p>○在校時間の削減 (スクールサポートスタッフの必要性および効果) 勤務時間を除く在校時間を令和2年度より年々削減</p> <p>○子供と向き合う時間の確保、教材研究や授業準備の時間確保、ワーク・ライフバランスの向上、持ち帰り仕事の日数減少、負担感の軽減 (教職員アンケート回答項目) 令和3年6月調査より年々増加</p> <p>○県学力・学習状況調査の向上</p> <p>県学力・学習状況調査の結果で、学力を伸ばした児童生徒の割合 72.6% 自分にはよいところがあると回答した生徒の割合 75.9% 令和2年度より年々増加</p> <p>○年次休暇が取りやすい環境 年次休暇平均取得日数 令和2年度より年々増加</p>

業務改善方針

Goal	教員と子供が向き合う時間の確保、教員のワーク・ライフバランスの推進、 教員の負担感の軽減、チーム力向上、自己啓発の推進 ⇒ 教員の指導力向上、生徒の学力向上
------	-----------------------------------------------------------------------------------

Practice	<p>②スクールサポートスタッフ・学習支援員の配置、事務職員の積極的な学校運営への関わり等による効果的・効率的な組織体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善コーディネーターによる会議の運営、会議で提案された業務改善策の企画・推進 ・教職員を補佐するスクールサポートスタッフの配置・活用に係る効果検証 ・教職員を補佐する学習支援員の配置・活用に係る効果検証 ・事務職員、事務の共同実施による業務改善の推進 	<p>③行事、会議、教材研究等の効率化推進、不要な業務等の大胆な見直し (労働時間減、負担感減)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の活用による業務改善の実践 ・教員の業務内容・時間の分析及び退庁時間設定 ・教員が職務に集中できる環境整備 ・ICTの効果的な活用による教材・指導案等の作成・共有 ・会議、分掌、集団指導、成績処理等の工夫の研究 ・前例にとられない教員、事務職員の職務の明確化 ・地域、保護者との適正な役割分担の研究
Base	<p>①ワークライフバランスに対する意識の醸成</p> <p>自分自身の「働き方の見直しの視点」への気づき</p> <p>管理職の組織マネジメントの意識の醸成</p>	